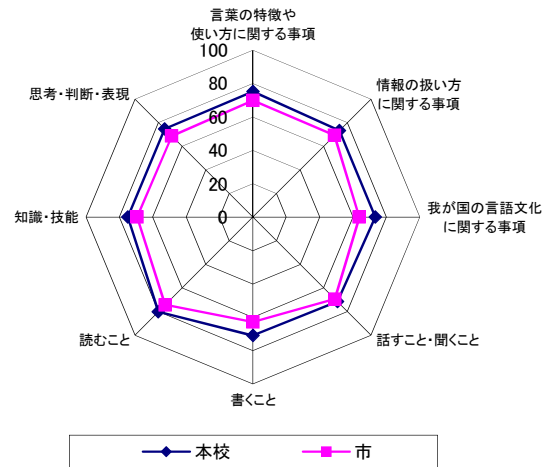


# 宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.3	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	73.3	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	73.3	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	71.6	69.5	71.5
	書くこと	71.0	62.8	67.1
	読むこと	80.2	74.4	73.7
観点別	知識・技能	74.9	69.4	71.9
	思考・判断・表現	74.8	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

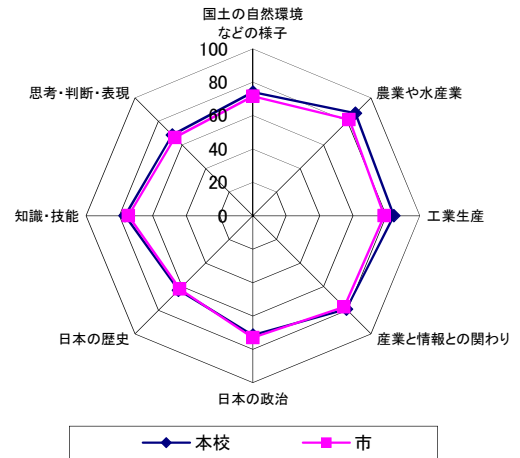
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字を書いたり読んだりする設問の平均正答率は、74.0%で、市の平均を5.2ポイント上回っている。漢字を文の中で正しく使うことに良好な状況が見られる。 ●文と文との接続の関係を理解し、正しい接続詞を選択する設問では、市の平均をやや上回ったものの、全国の平均を5.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の意味を理解して使うことや、読み書きの繰り返し学習などを行うことで、既習学習の定着を図る。 ・漢字を文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにする。
情報の扱い方に関する事項	○情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する設問の平均正答率は87.1%で、市の平均正答率を3.3ポイント上回る。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く設問の平均正答率は、市の平均正答率を4.8ポイント上回るが、59.4%と正答率が低い。	・情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く力を高めるために、普段の授業の中で、使用する言葉や時数などの条件をつけて文章を要約する機会を設ける。 ・文章だけでなく、様々な資料から読み取れることを整理し、文章にまとめる活動を取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	○和語、漢語、外来語に関する問題では、市の平均を9.5ポイント上回っている。	・和語、漢語、外来語について調べる活動を取り入れ、興味関心を高めるようにする。
話すこと・聞くこと	○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、市や全国の平均を上回っている。 ●話し合いの中にある質問の意図として適切なものを選ぶ設問の正答率は、全国や市の平均正答率を下回っている。	・聞く時のポイントやメモの取り方について指導するとともに、様々な話し合いの場を設定する取り組みを行う。 ・話の中心は何かを意識できるように、話し方の工夫や分かりやすく内容を伝えることの大切さを学ばせるようにする。
書くこと	○文章を書く問題では、全ての問題で市の平均を上回っている。 ○予想される反論とそれに対する自分の考えを具体的に書く問題では、市の平均を15.5ポイント上回っている。 ●目的や意図に応じて書き表し方を工夫する問題では、市の平均を3.1ポイント下回っている。	・目的を意識して書く活動を普段の授業で取り入れ、目的に合わせて書き表し方を工夫する経験を増やす。 ・朝の学習で、字数に合わせて簡単な文章を書く活動を取り入れ、さらに書くことに慣れるよう支援する。
読むこと	○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する設問の平均正答率は87.1%で、市の平均正答率を3.3ポイント上回る。 ●文章全体の構成を捉える設問の平均正答率は市の平均正答率を11ポイント上回るが、正答率は72.3%と低い。	・説明文の読み取りでは、児童が自分で文章の構成を考える時間を十分に取ったり、宿題で教科書に載っていない文章の構成を考える機会を設けたりして支援していく。

# 宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	74.1	71.6	67.5
	農業や水産業	86.8	81.5	82.1
	工業生産	84.5	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	79.2	77.2	68.2
	日本の政治	71.5	73.1	77.9
	日本の歴史	63.0	62.0	65.8
観点別	知識・技能	76.6	74.6	74.5
	思考・判断・表現	68.3	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

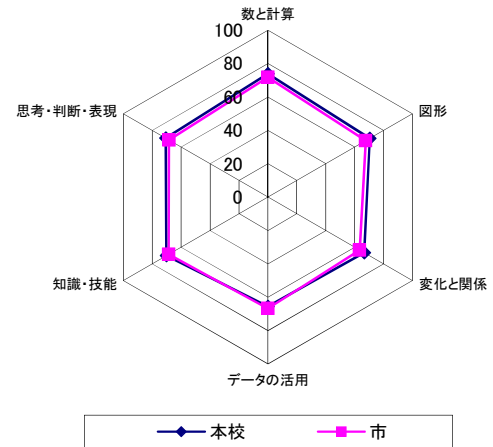
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○主な地形の名称と位置をもとに地図を読み取る問題では市の平均より9.4ポイント上回った。 ●自然災害から生活を守る設備についての問題では、市の平均よりも9.4ポイント下回った。	・授業等で、ニュース等で話題になった事象をその都度取り上げ、以前学習した内容と結びつけ、指導していく。 ・地図帳で国・県の位置や地形などを確認させる機会を多くもたせ、社会科をより身近な教科とする。
農業や水産業	○都道府県の位置と農産物の産地の理解をもとに、判断しているか問う問題では、市の平均より10.5ポイント上回った。 ●カントリーエレベーターの役割を問う問題では、市の平均よりも1.3ポイント下回った。	・日頃から、資料の読み取りを指導するとともに、資料を活用した授業を積極的に取り入れる。
工業生産	○自動車の出荷の工夫を捉え、記述する問題では、市の平均より11.1ポイント上回った。	・引き続き、授業において、多くのグラフや資料を提示しながら、分かることを読み取る時間を確保する。
産業と情報との関わり	○メディアの特徴を理解できているか問う問題では、市の平均よりも4.3ポイント上回った。 ●資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて捉え、判断する問題では、市の平均よりも0.4ポイント下回った。	・資料が何を表しているのか等、その資料の特徴を理解し、記述できるようにするため、授業において、資料を読み取り、自分の考えをまとめる時間を確保する。
日本の政治	○日本国憲法についての問題は市の平均を上回っている。特に日本国憲法の説明として正しい文を選ぶ問題は市の平均と比べて4.6ポイント上回った。 ●図に着目して、国民による政治の仕組みを判断する問題は市の平均よりも23.4ポイント下回った。	・国会、内閣、裁判所の働きと国民を関連付けて考えたり、国民として政治への関わり方を考えられるように指導していく。
日本の歴史	○江戸幕府による大名支配について問う問題では、市の平均よりも4.6ポイント上回った。 ●北条政子の訴えについての理解をもとに、年表を読み取る問題では、市の平均よりも2.4ポイント下回った。	・それぞれの時代の重要な人物について、行った政策や関連する事象を押さえる指導を行うとともに、歴史的事象に関する因果関係を理解できるような指導を行う。

# 宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.9	71.8	76.2
	図形	70.5	67.7	67.8
	変化と関係	66.7	63.4	62.7
	データの活用	65.5	66.7	61.5
観点別	知識・技能	70.2	68.6	70.7
	思考・判断・表現	70.7	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

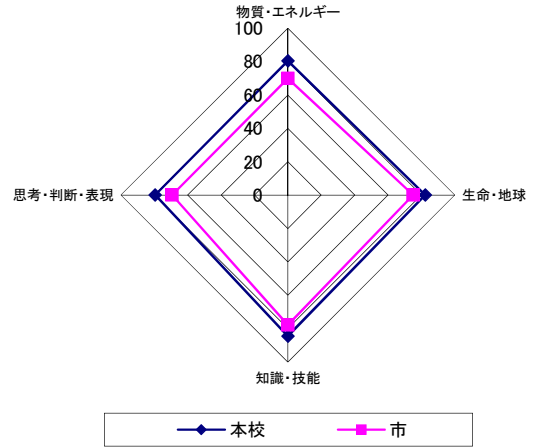
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○小数の計算では、正答率が市の平均を5.6ポイント上回った。特に、文字を使った式が表す場面を選ぶ問題では正答率が84.2%であった。また、分数×分数(約分あり)の問題では87.1%と高い正答率を示すことができた。</p> <p>●分数の除法の文章問題に合った図を選ぶ問題では、市の平均を6.2ポイント下回った。</p>	<p>・現学年の学習内容だけでなく、今までの学年での既習事項が身に付くよう、宿題、自主学習、朝の学習の時間を活用し、既習事項を繰り返し練習させる。</p> <p>・文章問題を解く際に、問題解決の手立てとなる文中の言葉に注目させたり下線を引かせたりするなど、筋道を立てて考えていく活動を取り入れる。</p>
図形	<p>○正五角形の作図方法から円の中心の周りにできる角の大きさを求める問題では、正答率が79.2%で市の平均を11.3ポイント上回った。直方体を組み合わせた体積を求める問題では、正答率が82.2%と高く、市の平均を6.5ポイント上回った。</p> <p>●合同な三角形を作図する問題では、正答率が78.2%だが、市の平均より7.0ポイント下回った。</p>	<p>・それぞれの図形の性質や特徴について復習する機会を設け、繰り返し図形に触れる機会を設ける。</p> <p>・定規やコンパス、分度器を使用し、具体物を使って考えたり、作図などをさせたりして、理解を深められるようにする。</p>
変化と関係	<p>○図から面積と数の割合を求め、どのうさぎ小屋がもっとも混んでいるかを考察する問題では、正答率が85.1%で市の平均を5.1ポイント上回っている。</p> <p>●円グラフから割合を読みとり、基準量から比較量を求める問題では、正答率が50.5%にとどまった。</p>	<p>・単位量当たりの大きさを求める問題では、様々な問題に触れさせる際に、しっかりと問題文を読み、何を求める問題なのかを考え、目的に応じて、どの量をどのように使うのかを判断できるように意識して問題に取り組ませる。</p>
データの活用	<p>○値に0がある連続量の平均を求める問題では、正答率が81.2%だった。</p> <p>●ドットプロットから中央値を読み取る問題では、正答率が49.5%にとどまった。</p>	<p>・データ全体を表す指標として、「平均値」「中央値」「最頻値」などの代表値について繰り返し指導する。また、データの分布の様子を捉えることにも着目させ、ドットプロットに表したり、グラフ化したものを読み取れるように、繰り返し問題に取り組ませる。</p>

# 宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	80.4	69.9	67.8
	生命・地球	82.2	75.1	73.7
観点別	知識・技能	84.4	77.8	78.4
	思考・判断・表現	79.5	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○ふりこが一往復する時間とふれはばの関係を調べる対照実験を計画する設問の正答率は、87.1ポイントで市の平均を18.1ポイント上回る。問題を解決するための実験計画をする力に良好な状況が見られる。</p> <p>●同じ量の食塩とミョウバンを水に加えたときの溶け方を選ぶ設問では、正答率が68.3ポイントで市の平均を3.9ポイント下回る。問題文の中の表の読み取る力に課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・食塩とミョウバンの溶け方に関する知識の定着を図っていくことが必要である。</p>
生命・地球	<p>○アイガモ農法は食物連鎖を利用してイネの成長を助けていることを記述する設問の正答率は、71.3ポイントで市の平均を14.7ポイント上回る。習得した知識を活用し、表現する力に良好な状況が見られる。</p> <p>●実験の結果から部屋の換気の頻度を分析する設問では、正答率が57.4ポイントで市の平均を5.8ポイント上回るが低い。文章とグラフを照らし合わせて考える力に課題が見られる。</p>	<p>・文章とグラフの関係を総合的に理解することが必要であるため、理科の授業だけでなく、他の教科を通して問題に対して総合的に理解する力を養っていく。</p>

## 宇都宮市立ゆいの杜小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
教員それぞれの専門性を生かした教科担任制の取組。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年を中心とした教科担任制の実施。</li> <li>・道徳のローテーション授業の実施。</li> </ul>	「勉強がすきか」の設問では、市の肯定割合をやや下回った。(2.7ポイント) 「学校の授業がどの程度分かるか」の設問では、やや下回った。(1.6ポイント)
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習の内容や方法を示し、参考になりそうな実践をクラスの児童に紹介する。</li> <li>・保護者が家庭学習や自主学習ノートを確認する機会を設定する。</li> </ul>	「宿題はきちんとやっている」の設問では、市の肯定割合と同等であった。 「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の設問では、下回った。(5.6ポイント)

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・学力調査の結果では、どの教科でも市の平均を上回る正答率となった。引き続き、各教科等の授業において、教科主任を中心として教材研究を深め、学力の向上を目指したい。学習に対しての前向きな態度については、市の肯定割合を下回る結果となっているので、専門性を生かしながらそれぞれの学習への興味関心を高め、学びを喜ぶ児童の育成を目指したい。

・家庭学習については、結果から宿題にきちんと取り組むことはできているが、目的をもたずに家庭学習に取り組んでいる姿勢が見られた。「家庭学習振り返り週間」を実施し、日々の家庭学習のめあてをしっかりと意識づける機会を設けていきたい。